

はじめに

大阪は、「なにわ八百八橋」と称されるように古くから数多くの橋をかかえており、現在、大阪市建設局は**764橋(平成21年4月現在)**の橋を管理しています。

大阪市では早くから都市施設の基盤整備が進められたため、他都市と比べても橋の高齢化が進展しており、今後いっそう高齢化が進む中、限られた予算で数多くの橋を維持管理する必要があります。

そこで、大阪市では平成19年度より大阪市橋梁保全更新計画検討会(委員長:渡邊英一 京都大学名誉教授、委員:古田均 関西大学教授、田中みさ子 大阪産業大学准教授)を開催し、学識経験者の意見を頂きながら橋を良好な状態で将来に引き継ぐために、必要な事業計画および実施方針を取りまとめた『**大阪市橋梁保全更新計画**』を策定しました。



大阪市の橋の特徴

大阪は、淀川や大和川の河口部に発達してきたまちであり、川や堀が多いことから、橋は市民の生活やまちの発展を支える重要な役割を担ってきました。このため「なにわ八百八橋」と呼ばれるように、今まで多くの橋が架けられてきました。

大阪市では、淀川、大和川および港湾地帯などに架かる長大橋、都市機能を支える高架橋、市民の生活を支える小規模な橋など、様々な橋を管理しています。

これらの橋は、道路施設として社会経済活動を支えている橋もあれば、その景観や歴史性などから、まちのシンボルになっている橋もあります。

大和川などに架かる長大橋



菅原城北大橋
橋長 1,200m

都市機能を支える高架橋



新御堂筋線高架橋
交通量 1日10万台以上

歴史、景観を形成する橋



天神橋
『なにわ三大橋』の一つ

市民の生活を支える小規模な橋



高砂橋
橋長約6m